

令和6年度 目黒日本大学幼稚園 自己評価票

〔本園の目指す幼稚園像〕

本園は児童樂園として開園以来、子どもたちの自発的活動に重きをおく自発主義を理想としてきた。本園の第一義的役割は、子どもたちが人格形成の基盤となる幼児期に、一人ひとりの持つ個性を伸ばしながら、目まぐるしく変動する社会の変化に適応できるよう、様々な知識を深めつつ、心豊かにバランスの取れた育ちへと導くことである。

〔本園の特長〕

- ・様々な体験活動を通して豊かな感性を育む。
- ・人や物、環境に関わりながら好きな遊びに取り組み、質の高い幼児教育を心掛ける。

〔本園の課題〕

- ・一人ひとりの発達と育ちの現状を捉えた上で、その学年だけでなく、今後の成長を考えたカリキュラムや保育の環境を整える。また、それに対応できる保育力を高めていくことに努める。
- ・少子化に伴い地域の未就園児数が減少する中、本園では教育内容を見直し、預かり保育や課外教室などの改革を進め新入園児の減少を抑えるようにする。

令和6年度の取組結果

〔概況〕

昨今の少子化を受け、今年度から年少組のクラス数を1つ減らし、2クラス（70名）の定員としたが、それ以上に新入園児の人数が減少してしまうスタートとなった。次年度に向け、見学会や説明会の回数を増やすと共に、公式LINEを運用し始め、当園を知らない保護者へのアピールを積極的に行うようにしていったところ、次年度には新入園児の人数が回復する見込みとなった。

保育活動では、今年度から本格導入となった「デジタル教育」では、まずは年少児をメインとし、前年から使用しているAIロボットとのふれあい、専用アプリを使った操作を行い、楽しみながらロボットへの興味関心が持てるように取り組んだ。2学期以降は、次年度より導入する幼児向けアプリの運用企業より、体験版を貸し出ししていただき、年中児、年長児を中心にタブレット活動を行った。

家庭支援の面では4月より18:30までの通常預かり保育の時間延長、9月からは目黒区の補助事業を踏まえて、週2回の給食、8:00～8:30の早朝保育を開始し、共働き世帯により利用しやすいよう変更した。

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
保育の計画性	子どもがその時に興味関心を持っていることや成長している姿を注視し、都度保育者間で情報共有しながら、今後の成長に必要な指導や、意欲を伸ばせるような活動を検討していき指導計画を策定した。 必要に応じて、絵本や植物等の実物、写真などの準備をし、子どもたちが実体験として学べるようにした。	A
保育の在り方 幼児への対応	学年全体で情報共有を行うなどの協力体制を取ったことで、受け持ちクラスの園児に関わらず、同学年や、バス乗車で関わることの多い園児の配慮事項等を把握することができていた。そのため他クラスであっても状況を踏まえた関わりができ、子どもたちにとっても担任以外の保育者に信頼を持って接することができるようになったと感じる。 子どもたち一人ひとりに寄り添い受け入れる姿勢は大切にしつつも、クラス運営として、指導計画を意識し、達成目標に近づけるための対応を常に検討していきたい。	A

保育者としての資質 や能力・良識・適正	学年毎の反省会や指導計画の作成などで都度意見を出し合い、活動内容を決めているが、年々ルーティン化していくことで、深く本来の活動目標や意味を省みる時間が少なかったように感じる。子どもたちにとっても効率的でスムーズな流れを考えながらも、今一度、何を目標にこの活動を行うのかということのを頭に置きながら、新しい情報を仕入れるなどの向上心を持って取り組みたい。また、2学期からデジタル教育の導入として、タブレットの体験利用を年中組、年長組の自由遊びの中で行ったが、子どもたちの使っている様子を見ながらアプリを使用して遊びや活動に取り入れる方法を今後も模索していきたい。	B
保護者への対応	バスや預かり保育利用で顔を直接合わせることが少ない保護者へも、日常の成長した姿や、ちょっとした話であっても意識的に伝えることができていたと感じる。怪我等については、程度によってなるべく早く保護者への連絡を行うようにし、誤解のないように時系列で話すよう心掛けた。 その反面、規則の部分や行事での注意点等が、保育者によって認識にずれが生じていることで保護者への回答が違ってしまうことがあったり、バスや預かり申請等に漏れがある場合の連絡が足りていなかったりすることが見られた。職員間での情報共有を徹底することや、日常から保護者とコミュニケーションを取ることで、保護者に正しい情報を理解できる伝え方を行うようにしたい。	B
家庭支援	今年度4月より通常預かり保育を18:30まで延長、また9月より園児受け入れ前の8:00～8:30に早朝保育を開始した。まだその時間の利用人数は多くないが、徐々に増えていることから、共働き世帯にとっては送迎の選択肢が増やせたのではないかと感じる。 長期休暇中の預かり保育は、開始から3年目となり活動の流れもルーティン化できたため、人数が多い日でも準備や対応にゆとりをもって取り組めた。 同じく9月より、目黒区の補助事業により、仕出し弁当型の給食の導入を行った。複数の給食業者から話を聞き、アレルギーの対応や、子どもの好む見栄えや内容も見て検討を重ねて利用を決定した。週4回のお弁当作りが半減したことにより、「朝の支度にゆとりが持てた」「家では食べないものを友だちとだと食べてくれる」と保護者からも好評をいただいている。食育の面でも、友だちと同じものを食べることで、好き嫌いが減ってきた子どもも見られる。 課外教室については昨年から引き続きであったが、実際の会員数と昨今の需要を考え来年度以降の内容を検討し、「書道」「ピアノ」「日本舞踊」を今年度で終了とし、「体操」「ダンス」「幼児教室」の来年度導入を決定した。	A
地域の自然や社会とのかかわり	目黒不動尊には、年長組のさつまいもの苗植えと収穫体験、年少組は散歩をさせていただき、ご住職との交流や境内の自然などを直に触れたり、年中組は秋に狛江園芸でさつまいも掘りを行ったり、園外の方と関わるという経験はできたが、さらに「地域の中の幼稚園」であることを考えた活動を検討できると良い。 学年毎の遠足では、動物園や水族館に行くこともあったが、引き続き外でのマナー等をしっかり伝えていく必要があると感じた。	B
保健衛生	子どもたちへの手洗いうがい指導や、日常の清掃に加え定期的な消毒等を行い、子どもの触れるものの衛生面に気を付けた。また、怪我をしない過ごし方や、体調を崩さないための方法などを子どもたちにわかりやすく伝え、保護者には、地域で流行していたり、園で報告数が増え始めたりしている感染症についてメールで注意喚起を行った。それにより、怪我や、感染症の大流行を未然に防ぐことができた。 2学期には、年中組を対象とした食育指導を外部業者に実施していただいた。食べ物の3つの栄養グループを知ったことで、好き嫌いの多かった子どもも、バランスを意識する大切さを知るきっかけになった。	A
広報	ホームページのブログを引き続き活用し、クラスの様子や行事について都度配信を行った。昨年度までは、外部へのアピールもブログやポスターのみとなっていたが、ホームページのお知らせや内容についても都度見直しをしながら、見学会、説明会、出願に向け街頭ポスターを作り変え、目新しく惹きつけられ	A

	るよう意識的に行った。また、見学会の回数を増やし、平日に来られない家庭向けに土曜日にミニ説明会を設け、通常の説明会以外で、園に訪問していただく機会を多く設けるなど改善を図った。 中でも有効性を感じたのは、今年度は8月に導入した公式LINEであり、初めてホームページを訪問した方も逃がさず、園児募集情報の提供をできるようにした。同時に導入したLINE広告から登録していただくことも増え、9月の説明会以降の問い合わせも増えたことで、昨年度よりも多くの方の受験に繋がった。 説明会の内容については「デジタル教育」を目玉としながらも、子どもたち本来の遊びの形を大切にしていることを伝え、より簡潔にしていたことで、初めての方でもわかりやすかったようだった。	
管理運営	行事毎の係分担をし、内容の検討や準備を行い、職員会議を通し情報共有・運営を実施した。反省点を踏まえて改善策を毎年検討していることと、職員の経験値も上がってきたことで、行事によっては準備や当日の運営が随分とスムーズになってきた。 危機管理の面では、係が主体となり会議を行い、防災訓練を月に一度の頻度で行った。職員が非常時の対応に慣れてきたことで、様々なケースを想定した訓練を取り入れられるようになりつつある。都度マニュアルの見直しもしていきたい。	A
教育活動 英語	年長組を対象とした英語の時間を、今年度も本学園のネイティブの英語教師により実施した。歌やゲームなど、クラス活動と同じような内容で英語を用いているので、子どもたちは抵抗感なくスムーズに活動に参加することができた。英会話を課外教室等で習っている子どももいるが、クラスの友だちや保育者とのやり取りを英語で行うことで親しみを持てた。	A
教育活動 体操教室	カワイ体操教室の講師の指導のもと、運動機能向上や、集中力を養うため課内で体操の時間を設けた。年長組では年間21回、年中組では年間10回、園庭または遊戯室にて、かけっこを始め、器械体操運動（マット、鉄棒、とび箱）や道具を使った運動（ボール、縄跳び）を行った。 運動に対しての得意不得意は見られるものの、身体を動かすことの楽しさや心地よさを感じ、時にできるようになった達成感や協調性を感じられる機会となり、意欲を持って取り組んでいる様子が見られた。	A
教育活動 リトミック	今年度もカワイ音楽教室の講師の指導のもと、リトミックを年少組で行った。1学期中や行事前などは、子どもたちの状態が落ち着かないこともあったが、講師が昨年度から引き続きであったため、状態に応じた対応をすることができた。 普段の保育者と違う先生との関わりに子どもたちは期待を持って取り組み、楽しみながら身体を動かしていた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

令和6年度 学校関係者評価結果

評価項目	評 価
保育の計画性	子ども一人ひとりの興味や意欲に寄り添い、野菜栽培など家庭では難しい貴重な実体験を豊富に提供することで、深い学びと健全な成長に繋がっていることを実感している。個々の成長段階に応じたきめ細やかな配慮がなされ、集団活動での個々への目配りや、具体的な成長のフィードバックに安心感を抱いている。役割や目標設定を通じて子どもの自主性を育むご指導も大変素晴らしいと思う。季節ごとのイベントも充実しており、中には親子で楽しく参加できることも良いと思う。先生方の日々の丁寧な関わりと、子どもの様子に関する密な情報共有は、家庭として大きな安心感に繋がっている。
保育の在り方 幼児への対応	全ての先生方が熱心に保育に取り組んでおり、非常に信頼できる。クラス担任の先生はもちろん、他の先生方も子ども一人ひとりの名前を覚え、その子の様子をよく見て把握しているため、親子共に大きな安心感がある。送迎時や学年を超えた関わりでも、個別

	のエピソードを共有してくれたり、下の子どもにまで配慮があったりと、園全体で温かく見守ってくれていると実感している。先生方間の情報共有も密で、子どもが複数の先生に信頼を寄せ、安心して幼稚園生活を楽しめていると感じる。
保育者としての資質 や能力・良識・適正	先生方は子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合い、子どもの気持ちに共感しつつ必要な場面で適切に導いてくれるため、信頼している。健康面や言葉遣いなど生活にまつわる学び、日本文化に触れる季節の行事など、実用的な学びと体験が多く、日々子どもの成長を感じている。デジタル教育は時代に沿った取り組みとして評価しているが、ネットリテラシーやデジタル機器との上手な付き合い方も含め子どもたちに話してもらいたい。
保護者への対応	怪我やトラブル時の迅速なご連絡や、小さなことでも細やかな対応をしてもらえ感謝している。バス利用で担任と話す機会が少ない中でも、お電話や送迎時に子どもの日常や成長を細やかに伝えてもらえ、安心して子どもを預けられる。預かり保育は子育ての精神的負担を軽減し、おかげで子どもと過ごす時間を大切にできている。先生方による日常の様子や情報の共有に差が見られることの改善、怪我・トラブルに関する園内連携のさらなる向上に期待している。
地域の自然や社会と のかかわり	お芋の苗植えや収穫、バスでの外出など、家庭では難しい貴重な実体験を豊富に提供してもらえ、子どもたちの食育やマナー習得に繋がっている。地域との関わりを大切にす姿勢は素晴らしく、子どもたちが地域の中で育つことを実感し喜ばしく思う。定期的に園外学習を設けて外出のマナーや気持ちのコントロールを学ばせてあげられたら嬉しい。目黒不動尊での苗植えがなくなってしまうのは残念だが、今後は地域の多様な職種の方のお話を聞く機会や、敷地内の学校生徒との交流、生き物との触れ合いなど、さらに幅広い体験活動があると、子どもたちの学びがより深まると思う。
保健衛生	手洗い指導を通して子どもたち自身がその大切さを実感し、清潔な習慣が身についたことで、体調を崩すことが減ったと感じる。先生方が玄関や園内をきめ細かく清掃されており、常に清潔な環境が保たれているため、子どもたちも保護者も安心して日々を過ごせていると思う。流行している感染症についてメールでの迅速な注意喚起は、子どもの様子を注意深く見守る上で非常に役立っていると感じている。食育指導では、栄養への関心が高まり、好き嫌いが減り、給食を楽しんでいることが子どもの様子から伺える。熱中症などの生活に関する学びや、言葉遣いの指導も日々の子どもの成長に繋がっていると実感している。
教育活動 英語	子どもたちが小学校に上がる前に英語に定期的に触れることは、苦手意識の払拭や言語への抵抗感をなくす上で非常に良い機会だと思う。ネイティブの先生方による『楽しく学ぶ』環境は特に貴重で、実際に海外で子どもが英語で挨拶できたことから、自然な習得を実感し、大きな喜びを感じた。クラスのお友だちと共に学ぶ環境は、子どもたちの大きな楽しみであり、幼少期から言語そのものの面白さや魅力を発見する貴重なきっかけを提供していると思う。現在英語の時間がない年少児や年中児にも、さらに英語に触れる機会を増やしていけると良いと思う。
教育活動 体操	小学校入学前の身体作りとして非常に重要であり、子どもたちが楽しく身体を動かしながら運動能力の土台を育む教育を提供してもらえありがたい。体操の時間は、できることが増える喜びや新たな挑戦への意欲、達成感、協調性を育む素晴らしい機会となっていると思う。専門の体育教師による指導のもと、子どもたちが生き活きとし楽しそうに活動に取り組む姿を見学できたことも喜びだった。活動の難易度が上がった際の指導や待ち時間を減らすための対策として、指導員の拡充をしてもらいたい。
教育活動 リトミック	リトミックがある日はとても楽しみにしていて、毎回その日にあったことを嬉しそうに話してくれた。子どもが音楽に合わせて身体全体で表現する活動は、集中力や表現力を育む有意義な機会だと思う。新しい先生やお友だちとの関わりから新鮮さや期待を感じ、前向きな姿勢が育まれていると感じる。年中から始まる体操の準備段階という意味でも、リトミック活動は良い導入だと思う。

令和7年度の改善取組項目及び方策

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
保育の計画性	各学年で定期的な会議で、実際の子どもたちの様子をもとに、年間指導計画で目標と掲げている姿へ近づけられるよう短期的、中期的の指導計画を立てる。	月案・週案 職員会議
保育の在り方 幼児への対応	保育者として、子どもたちにどのように育って欲しいかの願いを持ちながら、昨今の家庭のニーズや状況など、子どもたちが置かれている状況を意識した関わりができるようにする。	学年会議 職員会議 主任会議
保育者としての資質 や能力・良識・適正	保育者それぞれの価値観や考え方の違いを有効に利用し、「こうあるべき」ではなく、多角的な視野で物事を考えられるよう、話し合いの時間を多く設けたくさんの意見の中から、その場に応じた対応方法を見出す。 新しい事への挑戦する気持ちを持ち、外部研修や、保育誌等の情報を上手に取り入れる。 デジタル教育のタブレット利用がスタートするにあたり、保育者が知識を深めて日常に活用できるよう、定期的な園内研修を行う。	園内研修 目黒区の研修会 外部の研修
保護者への対応	行事や規則等については正確な情報を伝えられるよう、保育者間の共通理解を徹底する。 保育内容を話す時も本園の職員である責任感を持って、誤解のないような言い方を心掛ける。	朝礼 報告
家庭支援	課外教室の入れ替えを行ったため、「体操」「ダンス」「幼児教室（国立受験コース）」「幼児教室（入学準備コース）」の4教室がスタートする。保護者にとって円滑な利用ができるように、各教室との連絡を密に取り、預かり保育との相互利用時の対応を検討する。 パン券、牛乳券制度の見直しを行う。	主任会議
地域の自然や社会と のかかわり	目黒不動尊でのさつまいもの苗植え・収穫体験が今年度で終了となったため、園外保育として散歩等での訪問を行っていきたい。 またコロナ禍以前に行っていた、消防署や警察署との関わりを検討し、「地域の中の幼稚園」である意識を持てる活動を実施したい。	年間行事に準ずる
保健衛生	引き続き、感染症の情報など養護教諭との情報共有を行い、保護者に発信や子どもにわかりやすい衛生指導を検討していく。	保健計画予定に準ずる
広報	ホームページの構成をリニューアルし、見たい情報を探しやすいよう変更を行う。またブログではカテゴリーを分け、外部の方が見てもどのような保育活動を行っているか分かりやすい配信をする。 公式 LINE を有効に使い、園児募集期間には配信メッセージ数を増やし、密に情報を発信できる体制を整える。また、好評だったミニ説明会を開催し、園を探している保護者が足を運べる機会を増やしていく。	配信時の確認 主任会議
管理運営	委員会や係など役割を決め、定期的な会議の中で情報共有を行う。	委員会・係等会議
新規取り組み	デジタル教育2年目に入り、年中時からタブレットを使用した活動が開始するため、アプリの有効利用や、普段の保育に落とし込んだ内容を検討し、デジタル教材の活用の流れを作る。	学年会議 職員会議 主任会議

以上